



EspressReport ES インストールとアドミニストレーション

Ver 1.0

2009年11月2日

株式会社クライム

はじめに

本ドキュメントについて 対象範囲

本ドキュメントは、EspressReport ES のインストールとアドミニについての説明

変更履歴

版	作成日	変更者	内容
1.0	2009/10/2	川上	初版

1 Installation and Configuration

ERES には各種インストール・構成に関するオプションがありますが、ここでは最初からスタートします。

1.1 Installing ERES

インストール・プログラムは NT/2000/XP, Solaris/Unix, Mac OS X, pure Java バージョンの 4 つがあります。

Windows NT/2000/XP: Windows インストーラをスタートさせるには、installERES.exe ファイルを起動させるとインストールがスタートします。

Unix/Linux: Solaris/Unix インストーラをスタートさせるには installERES.bin ファイルを実行すると Solaris/Unix のインストールがスタートします。

Mac OS X: Mac インストーラをスタートさせるには InstallER.zip をダブルクリックし、InstallER.app ファイルを抽出します。それから InstallER.app をダブルクリックします。

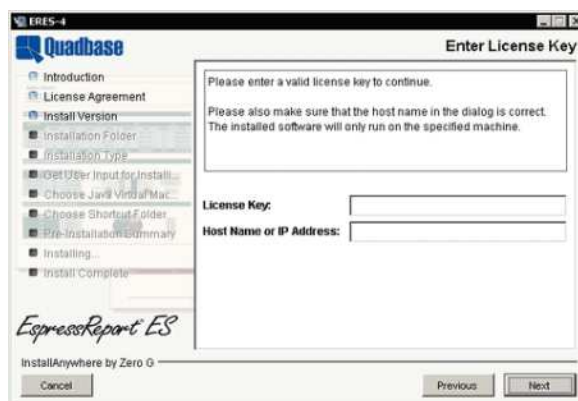
Pure Java: pure Java インストーラをスタートさせるためには Java Development Kit の Java1.2 以上が ERES をインストールするマシンにインストールする必要があります。Make sure that the JDK is included in your path (or move the installERES.jar file to the same directory as the JDK). From a command prompt navigate to the directory where you have placed the installERES.jar file, and type the following command: `java -jar installERES.jar`. The installer will then launch.

Once the installation program has launched and you agree to the license agreement, the first option that is presented is to specify the directory into which you would like to install the evaluation or release version.



Install Version Dialog

ERES リリース(製品)バージョンのインストールを選択した時には次のダイアログが現れ、ライセンス・キーを入力し、ERES をインストールするマシンのホスト名を確認します。



Enter License Key Dialog

情報を入力後、インストーラは Quadbase の Web サイトにライセンス・キーの確認を行います。もしレジストレーションに失敗した時は ERES のリリース版はインストールを実行することはできません。評価版として

のインストール・オプションが可能です。インストールが終了後に <http://www.quadbase.com/register.jsp> でキー・オンラインによるレジスターすることができます。

注) インストールが終了後はリリース版はこのダイアログで指定したホスト名のみで稼働します。ホスト名が正確かどうか再確認ください。マシンの IP アドレスを使用することも可能です。

ライセンス・キーをレジスター後か、評価版を指定した後は、次のダイアログが現れ、ERES をインストールするディレクトリを選択します。

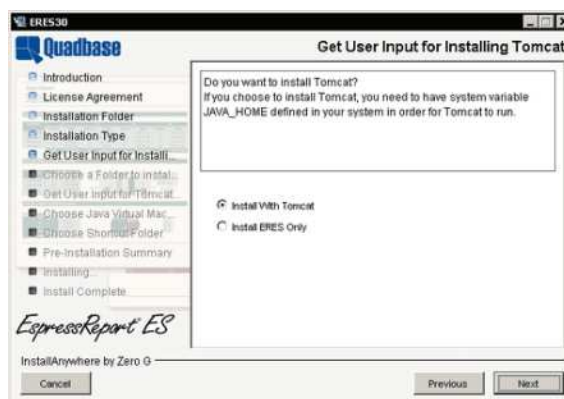


Choose ERES Location Dialog

インストールするディレクトリを指定後、インストーラはディレクトリにすでに ERES がインストールされているかどうかを確認します。もし、インストールされていたときはアップグレード・インストールを推奨します。詳しいことは Section 2.1.1 を参照ください。次のオプションは ERES と Tomcat をインストールするかどうかのオプションです。この前の章で説明したように、ERES サーバはアプリケーション・サーバ/サブレット・コンテナにサブレット・コレクションとして導入されます。独特の機能として、ERES と一緒に Apache Tomcat サーバをインストールすることができます。初めて ERES をインストールか、評価版としてであれば、このオプションの選択を推奨します。

注) Tomcat を正確にインストールするには、システムの JAVA_HOME 環境変数が必要です。システムとしてこの設定を望まない時は JAVA_HOME 変数の設定のために、<TomcatInstallDir>/bin ディレクトリの下 catalina.bat/.sh を修正できます。すでにシステムで Tomcat をインストール済であれば、システム変数として定義した CATALINA_HOME が存在しないことを確認ください。

もし、Tomcat を必要としないインストールを選択したときは ERES ファイルがインストールされ、マニュアルでのアプリケーション・サーバ導入が必要です。サーバ、プラットフォーム別のインストールは Section 10.3 を参照ください。



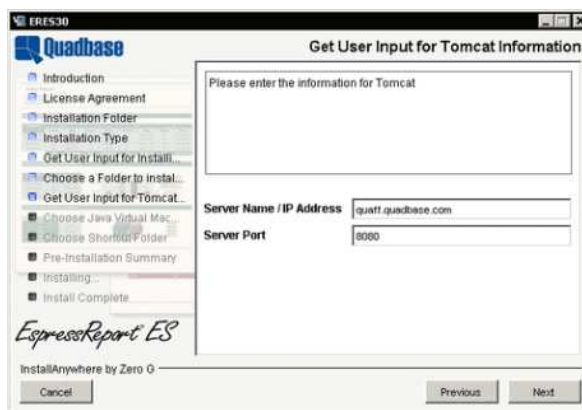
Use Tomcat Dialog

次のダイアログで Tomcat をインストールするディレクトリを選択します。Tomcat をインストールしない選択をした時は、このオプションはスキップされます。Tomcat と ERES はシステムで別々のディレクトリにインストールされ、ERES ディレクトリは Tomcat のディレクトリにバーチャルにマップされます。



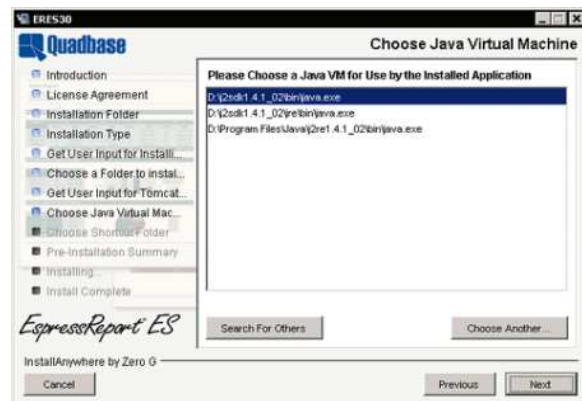
Choose Tomcat Location Dialog

次のダイアログで Tomcat サーバの接続オプションを設定します。もし、Tomcat のインストールを選択しないときはこのオプションはスキップされます。Tomcat サーバに対して Tomcat が受信するマシン名、IP アドレス、ポート番号を指定する必要があります。



Choose Tomcat Settings Dialog

次のダイアログで ERES が使用する Java Virtual Machine を選択します。システム上での JVM リストが表示され、1 つを選択します。使用したい JVM がリスト上に無い時は「Choose Another」ボタンをクリックし、次をブラウズします。



Choose JVM Dialog

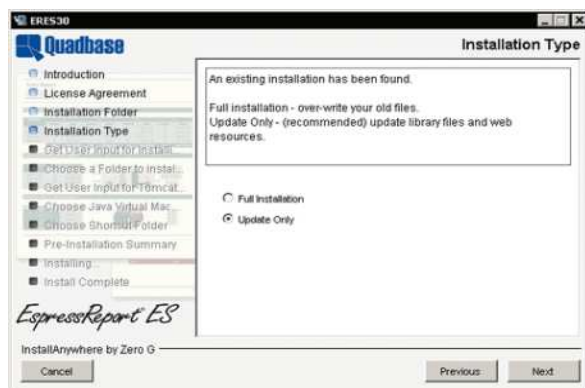
注) ここで指定した JVM は Organizer をアプリケーションとして起動させた時のスクリプト生成のみに使用されます。ERES はサーバ、Web ブラウザのアプレット・コンポーネントの Java プラグインとしてアプリケーション・サーバ (Tomcat での JAVA_HOME 変数の使用に定義された) で JVM を使用します。

最後のオプションは Windows NT/2000 インストールのみに有効なインストーラです。これはプログラム・ショートカットをスタートメニュー、デスクトップ上に作成することができます。

最後のオプションを終了後、選択したオプションのサマリーが表示されます。次にプログラム自体をインストールします。

1.1.1 Re-Install/Upgrade

もし、ERES ファイルのインストール指定先に ERES インストールが含まれていた時は、現在のインストールをアップグレードするか、新しいインストールかの選択になります。



Upgrade Dialog

もし、アップグレードを選択したときは、ERES インストール・ディレクトリのプログラム・ファイルのみアップデートされます。Tomcat はインストールされず、ディプロイメント・コンフィギュレーションは変更されません。もし、新たなインストールを選択した時は、すべての現在のインストールは上書きされます。

1.2 Configuration

ERES インストールが終了後に、いくつかのコンフィギュレーション・オプションがあります。

1.2.1 The ERES Database

ユーザとグループについての情報、Organizer のファイル、スケジュール/アーカイブ・ジョブ、セキュリティ/プリビレッジ情報はデータベースに蓄積されます。デフォルトでは ERES インストールに含まれている HSQL Java アプリケーション・データベースが使用されます。このデータベースに対する接続はユーザに対しては透過的で、即ち使用できます。このデータベースはディプロイメントと評価環境で使用できますが、大規模なディプロイメントに従って、ユーザは変更可能です。

1.2.1.1 Using a Different Database

ERES はユーザに対してインストールで提供される HSQL データベース以外のデータベース使用のオプションを提供します。別のデータベースを稼働させるためにはそのデータベースに ERES で使用されているテーブルを作成する必要があります。「Create table scripts」が ERES インストールで data ディレクトリで提供され、ほとんどのデータベースで利用可能です。

ERES サーバがデータベース接続に使用する接続は ERES インストールの /WEB-INF/orguserdb/ ディレクトリ下の config.txt ファイルに指定されています。ユーザは使用したいデータベースへの JDBC 接続を提供することで接続情報を変更できます。使用しているデータベース用 JDBC ドライバは ERES をディプロイしたアプリケーション・サーバ/サブレット・コンテナのクラスパスに対して追加/使用可能にする必要があります。

違ったデータベースへの設定インストールに関する情報は Chapter 10 を参照ください。

1.2.1.2 Running HSQL in Client-Server Mode

通常 HSQL データベースはサーバ・サイドのアプリケーション・プロセスとして稼働し、ユーザはデータベース・プロセスのスタート、ストップのユーザ相互作業の必要はありません。HSQL はまたクライアント/サーバ環境で稼働させることも出来ます。このモードはマルチ・ユーザ環境での利用でデータベースの高いパフォーマンスとスケラビリティの改善が可能です。クライアント/サーバ・モードで HSQL データベースを稼働させるためにはコンソール・ウィンドを開き、ERES インストールでの /data/ ディレクトリにナビゲートします。このディレクトリで下記のコマンドを稼働させます

```
java -classpath "../WEB-INF/lib/hsqldb.jar" org.hsqldb.Server -database quadbasedb -port 2857 (or whatever port you would like the database to listen on)
```

データベース・サーバ・プロセスがスタートします。このモードで HSQL に接続させるために ESER サーバをコンフィグレーションさせるには、ERES インストールの WEB-INF/orguserdb/ ディレクトリ下の config.txt をオープンします。[database url] ヘディング下を「jdbc:hsqldb:hsql://machinename:port」の様に変更します。Machinename はサーバの名前か IP アドレス、port number は HSQL サーバに接続するポート番号です。

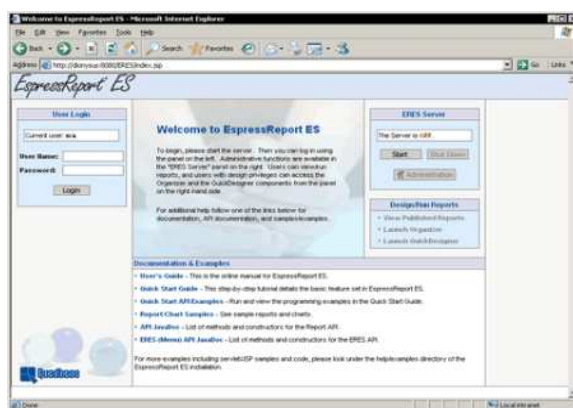
1.2.2 Starting the Server

ERES の起動と管理の最初のステップはサーバのスタートです。ERES サーバをスタートさせるには、サーバがデプロイされているアプリケーション・サーバとサブレットをスタートさせる必要があります。もし ERES と Tomcat がインストールされていたら、Tomcat インストールの/bin/ ディレクトリに行き、Tomcat を起動させる startup.bat/.sh を実行します。

次に ERES のスタート・ページを実行させます。これは ERES インストール・ディレクトリの index.jsp ページです。ERES と Tomcat をインストールしてあれば、index ページに届くように/ERES/の ERES インストール・ディレクトリにバーチャル・ディレクトリ・マッピングされていて、次の URL を使用できます。

`http://machinename:port/ERES/index.jsp`

注) ERES インターフェイスを使用するにあたって、ユーザのブラウザでクッキーと javascript をイネーブ爾する必要があります。



ERES Start Page

スタート・ページにおいて直接サーバを起動させることができます。右側の「Start」ボタンをクリックして、サーバを起動させます。一度サーバがスタートしたら、他の ERES ファンクションにアクセスするには左側でログインできます。(最初のデフォルト administrator ログインは username: admin password: admin です。)

注) どのユーザもサーバを起動できますが、administrator のみがサーバをシャットダウンできます。サーバが起動中でも、「Shut Down」ボタンは「system administrator」としてログインしたときのみ有効です。



ERES Server Running

2 Administration

ERES でのほとんどの管理者ファンクションは Admin Console で取り扱われます。Admin Console は ERES スタートページから立ち上げ可能なシンクライアント・インターフェイスです。Admin Console をスタートさせるにはサーバを起動させ (section 2.2.2 参照)、administrator としてログインします。Administrator の username は 'admin'、デフォルト password は 'admin' になっていますが、コンソールから変更可能です。

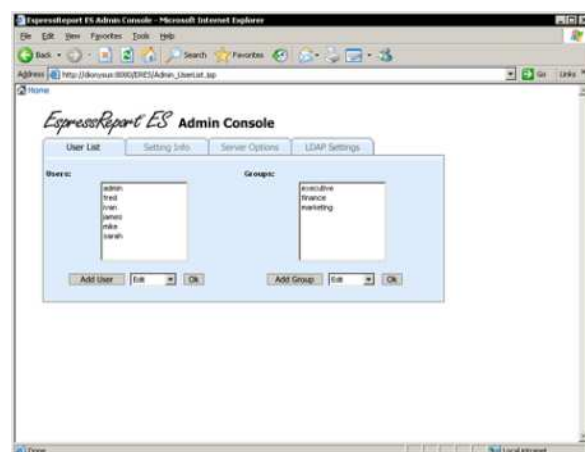


Admin Logged into Start Page

スタートページの administration ボタンでログインすれば、アクティブになります。admin console をロードするためにこのボタンをクリックします。メニュー・ページ・ログイン「Admin_Login.jsp」から直接に admin console にログインすることもできます。Tomcat といっしょに ERES をインストールしていればログイン、URL は「http://machinename:port/ERES/Admin_Login.jsp」です。これにより直接 Admin Console にログインできるページにたどりつきます。

2.1 The Console Interface

Admin Console インターフェイスのトップには「User List」、「Setting Info」、「Server Options」、「LDAP Settings」の4つのラベルがあります。

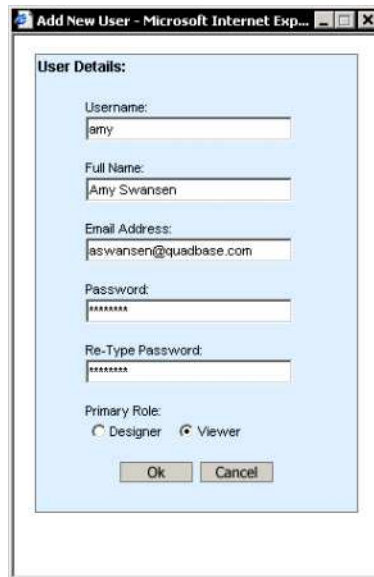


Admin Console

2.1.1 User List

Admin Console の「User List」タブで、ERES を使用してレポートとチャートをデザイン、ビューが可能なユーザ、グループを作成、保守することができます。ダイアログの左側が定義されたすべてのユーザリストで、右側がすべての定義されたグループのリストです。通常、これらのユーザとグループは ERES データベースに保存されますが、ERES は LDAP サーバを含む現状のシステムからユーザとグループを抽出するようにコンフィグレーション可能です。新規ユーザを追加するには「Add User」

をクリックします。これにより新規ユーザの決められた情報を入力するための新たなダイアログが開きます。



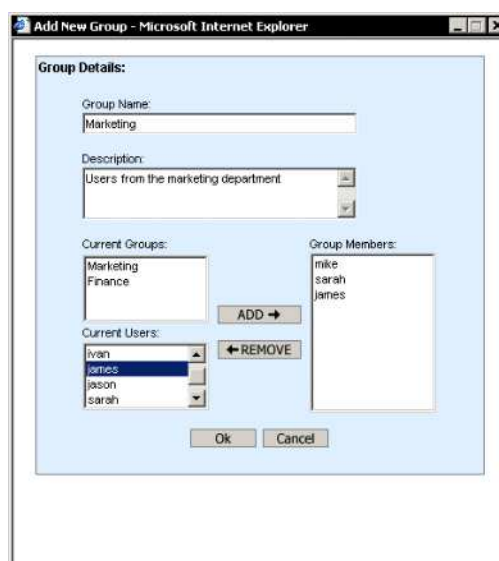
Add User Dialog

それぞれのユーザに対して、username, email address (スケジュールの通達用), passwordが必要です。各ユーザはまたこのダイアログでviewerかdesignerかの役割アサインがされます。Viewerはレポートのビューと起動は可能ですが、Report Designer, Chart Designer, Organizerのようにデザイン/開発ツールへのアクセスはありません。Designerはすべてのインターフェイスにアクセスは可能ですが、ライセンスによる制限があります。各designerユーザは開発シートとしてライセンスされます。

新規ユーザとしての追加情報が終了したら、「Ok」をクリックし、次の新規ユーザを追加します。

ユーザ・リストからユーザを選択して編集/削除が可能で、ドロップダウン・メニューから実行(編集、削除)したいファンクションを選択しユーザ・リスト下の「Ok」ボタンをクリックします。ユーザの編集を選択した時は、ユーザ情報変更のためのダイアログがオープンします。ユーザ削除を選択したときは、削除されます。

新規ユーザの追加はグループ・リストの下の「Add Group」ボタンをクリックします。これによりグループとメンバー選択の情報指定とするためのポップアップ新規ダイアログが開きます。



Add Group Dialog

各グループではグループの名前とメンバー選択の必要があります。メンバーは個人のユーザか他のグループです。グループ・メンバー追加は左側からユーザか及びグループを選択し、「Add」ボタンをクリックします。グループにメンバーを追加して、「Ok」ボタンをクリックして、終了します。

Machine Name:これは ERES をインストールするマシンのホスト名です。これは通常インストール中にコンフィグレーションされますが、必要であれば変更可能です。

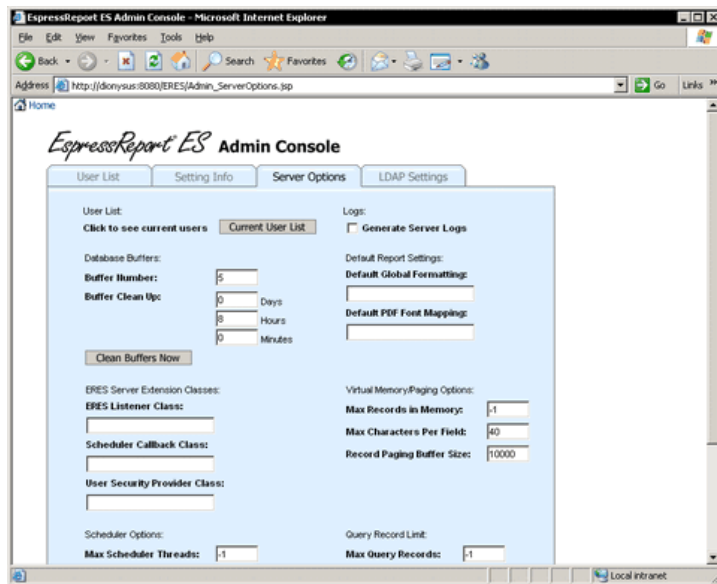
Web Root:これは ERES がディプロイされているサーバの web ルートです。もし、ERES と Tomcat をインストールした時は自動でコンフィグレーションされます。

ERES Servlet Context:これは ERES サーバのサブレット・コレクションとディプロイメントのオプションのコンテキストです。もし、ERES と Tomcat を一緒にインストールした時はデフォルトのコンテキストは「ERES/servlet」です。もし、このオプションを変更した時は、サーバの再起動が必要です。

これらのオプション変更は可能で、変更を適応させるためには対応する「Change」ボタンをクリックする必要があります。

2.1.3 Server Options

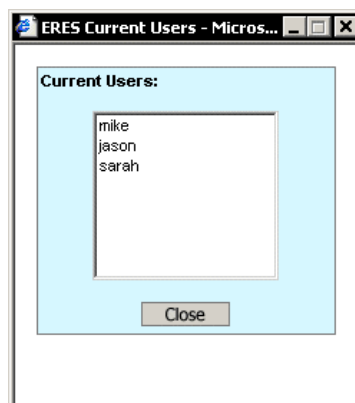
「Server Options」タブはいくつかのサーバ・コンフィグレーション・オプションを含んでいます。



Server Options Dialog

次のコンフィグレーション・オプションがこのタブで可能です。

User List:このオプションはどのユーザが現在レポート/チャートのビュー、作成で ERES にログインしているか確認できます。「Current User List」をクリックします。



Current User List Dialog

2.2 User Settings

アドミニストレータに加えて、ユーザも ERES の自身の情報/設定を変更可能です。アドミニストレータ以外のユーザが Start ページにログインすると左側に「User Settings」とラベルしたダイアログが現れます。



User Logged into ERES Start Page

リンクをクリックすると新たなウィンドウが現れ、そのアカウントに関連する e メール、パスワードの変更が可能です。



User Settings Dialog

変更を行った後、「Ok」をクリックするとユーザ変更を保存し、ウィンドウがクローズされます。